

から読み取れる ンダー ・リテラシー



諸橋 泰樹さん

現代を生きる能力 メディア・リテラシー

生きるに必要な読み書き能力

リテラシー (literacy) とは「読み書き」能力を意味し、私たちの大切な基本的人権とかわります。

もし読み・書きができなければ、私たちは人名を読めず、自分の名を書くことができず、自らの意思表示も他者とのコミュニケーションもすることができないばかりか、言語と不可分(切り離すことのできない)なアイデンティティ(自己の同一性)も確立できません。

また、契約書の内容を理解しないまま自分に不利な条件を認めてしまうことになりかねませんし、憲法や法律の内容がわからないまま自分たちに不利な義務や負担を課されてしまうことになりかねません。

新聞や本を読むことが制限され、テレビを観ていろいろな情報を得ることができず、手紙を書いたり電話をしたりして他者と意思疎通をすることが禁止されたら、私たちはそれを大変な苦痛と感じるでしょう。さらに、今日の安売りについても知らず、台風や地震な

どの災害情報を知って避難することもできず、生活は不便をきたし、生きてゆくこと自体が脅かされるでしょう。

そして事実、そういった基本的人権から疎外された人びとがかつており、そういった基本的人権を剥奪する時代・状態がこの国にもあったのです。

こう考えると、リテラシーとは「生存の権利」(いのち)ともかわつてくることになります。

メディアへの批評的な視点を

メディア・リテラシーもその延長線上にあり、メディアからの情報を受け取って、その内容を理解し吟味し、自らも情報を発信する能力のことを言います。

メディア・リテラシーは、電子メディアの使いこなし技能(スキル)だけを意味するものではありません。確かにこれらのスキルがなければ今やメールのやりとりによる「連絡」もできず、インターネットでチケットも入手できず地上波のテレビも観られなくなりつつあつて、生活と密接に関係する能力ですが、本質はもつと別のところにあります。

何よりも必要なのは、文章や話についてそれを理解する語彙力と論理力、また自らが書き・話す際の語彙(豊かなことば)力と論理(組み立て)力、そして映像や音響などこと